

生命を生みだす母親は
生命を育て 生命を守る
ことをのぞみます



ニュース版

No.6

2026.6.30

日本母親大会連絡会

東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 (〒102-0084)

電話03 (3230) 1836 fax03 (3230) 1837 ホームページ<http://hahaoyataikai.ai.jp>

第71回日本母親大会 in 宮城 分科会 9月13日(日)

今、国会前はじめ全国各地では、平和憲法守ろうと、集会や行動への参加が、自発的に広がっています。高市政権と国民意識との矛盾はますます深まっています。シンポジウムは、今を皆さんと考えます

そして、特別企画は東日本大震災から15年。被災地宮城で、被災当事者の方々からお話をうかがい、被害を風化させることなく考えます



●シンポジウム

「憲法が生きる社会を一みんなで戦争を止めに行こう」

伊藤千尋さん(国際ジャーナリスト) 長尾詩子さん(弁護士)

第10分科会のテーマは平和と民主主義です。トークネットホール大ホール(1265人)です。

助言者の伊藤千尋さん(国際ジャーナリスト)は、「政府が起こす戦争に国民が黙って従う時代は過ぎました。私たちが政府を動かして平和を創る時代です。平和憲法を守るだけでなく活かして、世界に平和を広めるのが、今の私たちのやるべきことではないでしょうか。」

助言者の長尾詩子さん(弁護士)は「絵本『戦争のつくりかた』では、集団的自衛権から始まり、スパイ

防止法、防衛増税を経て、改憲で『戦争する国づくり』が完成します。戦争は物理的にも精神的にも人間を壊します。みんなで戦争を止めに行きましょう。」と一言メッセージを寄せていただきました。

軍拡を否定しない政府は、危険な方向へ進もうとしています。このような中、国会前には全国から、平和と憲法を守ろうとたくさんの人たちが思い思いのペンライトをもって集まっています。さあ、皆さん、一緒に戦争を止めに行きましょう！

●特別企画

「東日本大震災・東京電力福島原発事故から15年 その教訓から学ぶべきこと」

15年経っても津島に帰ることができない福島原発事故津島被害者原告団の石井ひろみさん、核物質は人間が管理できるものではないと福島民医連の渡辺よしひろさん、風化させることなく問い続けることと女川原

発再稼働を許さない宮城アクションの多々良哲さんの三人の方の報告を聞き、一緒に考えます
小ホール(500人)

女性参政権を求めて立ち上がった女性たち

第 66 回徳島県母親大会が開かれる

5月31日、第66回徳島県母親大会が開かれました。午前中は、「子どもたちの豊かな成長・発達とICT」、「食はこれからも守られるか」「戦争になったらどうなるの〜紙芝居『はだしのゲン』から考える」「どうなる私たちの医療と介護」の4つの分科会を行いました。分科会では、グループディスカッションを取り入れ、充実した討論がされました。

午後の全体会は、平井美津子さんによる「私のからだは私のもの〜誰もが大切にされる平和な社会」と題しての記念講演がありました。歴史の中で、女性たちは沈黙をさせられてきたように見えるけれども、女性参政権を求めて立ち上がった女性たちがいたことを、明治時代の楠瀬喜多、戦前の平塚らいてう、市川房枝などの運動等の歴史的事実を紹介しながら話されました。

また、最も人権が軽んじられるのは戦争で、女性は戦争に協力することを強いられた、子どもを生む、銃後の守り、戦地で兵士の性の相手を担わされたことなど、戦争による女性の無権利状態についてわかりやすく話してくれました。そんな歴史の真実をなかったこ

とにしようとする攻撃が激しくなり、従軍

慰安婦について教科書にほとんど載らなくなってきましたが、従軍慰安婦について授業で学習した中学生が「女性というだけで何かをさせられたり、何かができなかったりすることを認めてはいけないし、そういう考え方を変えていかないといけない。女性として生まれてよかったという社会を作りたい」と感想を書いたことを紹介してくれました。歴史をきちんと教えるということは、自分がどう生きていくのかということを考えることができる力になるのだと思いました。最後に「おかしい」と声を上げた人の声は決して消えない、私たちも声を上げ続け二度と女性たちが権力者の都合で翻弄される社会を作らないようにしましょう、と呼びかけられました。

大会アピールと、平和と食料問題に関する特別決議2つを採択しました。



憲法をもっとあなたにージェンダー平等と平和

600 人の参加で第 70 回三重県母親大会開催



6月7日梅雨入りの降雨の中、津リージョンプラザで、第70回三重県母親大会が開かれ、会場いっぱいの600人が参加しまし

た。オープニングは合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」で、三重県下から集まった子ども20人と大人80人、合計100人の歌声が会場に響きわたりました。

その後、弁護士さん2人の「四谷姉妹」に講演をしていただきました。テーマは「憲法かえて平和は守れるの?!〜憲法をもっとあなたに〜」です。お笑い芸人「阿佐ヶ谷姉妹」をまねて結成されたコンビによる漫才で、面白おかしく話が進みました。プーチン、ネタニヤフ、

トランプの3人を「KKG3」（国際法違反の困った爺さんたち）と命名し、会場の大きな笑いを取りました。トランプ大統領とハグする高市首相に「ドナルドにすり寄ってドナルドノー！」高市政権が防衛費増強、非核三原則見直し、防衛装備移転運用方針の見直しなど行い、憲法を変えて戦争できる国にしようとしていること、ジェンダー平等と平和との関係などについても語られました。

県内の運動交流では、6団体がスピーチを行いました。この日が三重県内平和行進初日で、出発式も兼ね、会場の参加者に見送られて行進がスタートしました。企画が情勢に見合ったものだったこと、新聞に掲載、FMラジオで放送と宣伝した効果や、実行委員みんなの奮闘のおかげで多くの参加者で成功することが出来ました。

（実行委員長 木村順子）